

Carbon Footprint Report

CFP算定報告書

ELLE ACTIVE! 2023

イベントにおけるGHG排出量の算定と今後について

2024.03.13

HEARST
fujingaho



01

CFP（カーボンフットプリント） 算定の目的

私たちは環境課題の中でも気候変動問題を最重要課題として位置づけて取り組みを開始しました。

当社が排出するGHG（温室効果ガス）を削減する上で、まず可能な限り1次データにて排出量を算定し、そこから削減施策を検討していくことが重要と考えています。そのため、当社事業活動における CFPの算定を実施し、右記の3つを目的として進めます。



02

算定対象

イベント

イベントを開催した際に排出される GHG (温室効果ガス)*を算定
イベント開催時における企画・設営・運営・集客までが対象範囲
※大気中の二酸化炭素やメタンをはじめとする
地球温暖化の原因となるガスの総称

イベント情報

イベント名 **ELLE ACTIVE! FESTIVAL 2023** ※以降EA!と表記
ELLE が主催するサステナビリティに特化した
リアルイベント
開催日時 2023年11月11日(土) 11:00 - 19:00
開催場所 シェアグリーン南青山
総来場者数 約 650 名 (関係者含む)
内容 トークセッション、協賛社ブース、併設カフェでの飲食



03

算定情報

参照規格・解釈

1. カーボンフットプリント ガイドライン(経済産業省、環境省)
2. ISO14067 (製品カーボンフットプリントの算定・検証)
⇒1&2を参照して自社で算定ルールを作成

参照したデータ

1. IDEA Ver.3.2
(国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門)
2. 環境省 サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定
のための排出原単位データベース (Ver.3.3) 温室効果ガス排出算定用係数

算定方法

GHG排出量 = 活動量[※] × 排出原単位

※使用した原材料の量、生産時のエネルギー利用量、輸送量や廃棄量などを指す

データ収集方針・ 期間

活動量データは一次データ(直接測定・算定するデータ)を優先して取得・使用する事を基本とし、一次データの取得が困難なところはシナリオ・仮説、二次データを使用し対応。

データ収集期間はイベント企画キックオフ開催時～イベント当日。

04

システムバウンダリー（算定対象範囲）

イベント当日と施工日（前日）を算定日対象とし
関係する人や物から排出される温室効果ガスを
算定の対象としました。

関係者の移動
(来場者/出演者/制作会社/協賛社/主催社)

関係者の企画時[※]に関連する排出
(制作会社/主催者)
※企画キックオフミーティングより開催された会議が対象

会場内全体で使用されるエネルギー
(当日/リハーサル)

イベントに関連する材料・資材自体の
排出負荷とそれらの輸送に関わる部分

材料・資材の廃棄や
リサイクルに関連する部分

以下は今回の算定のバウンダリー外として設定

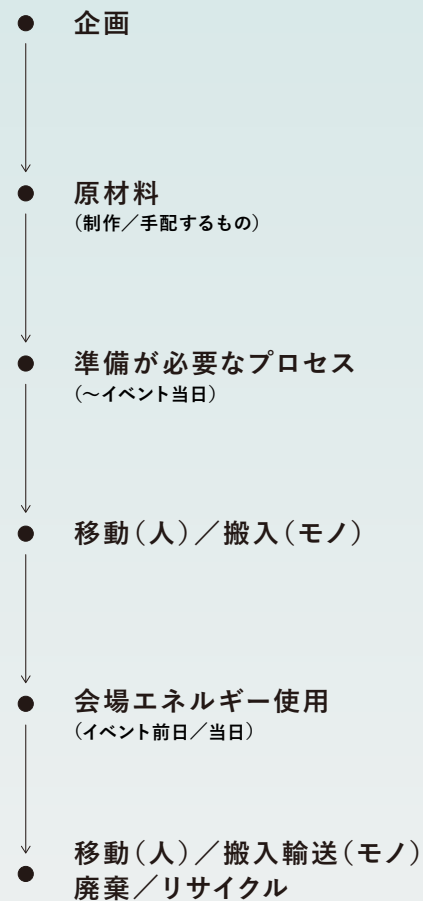
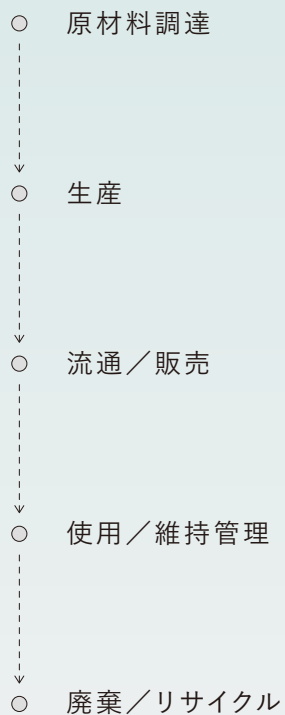
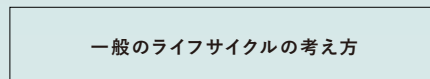
レンタル品、ステージ・照明など
繰り返し使う機材（上流部分）自体の排出負荷

集客の為の宣伝・告知、および
メディアにおける事後レポート作成に伴うの排出
→広告やコンテンツ制作部分の算定として
別プロジェクトにてカーボンフットプリントを算定予定

05

対象とするライフサイクル

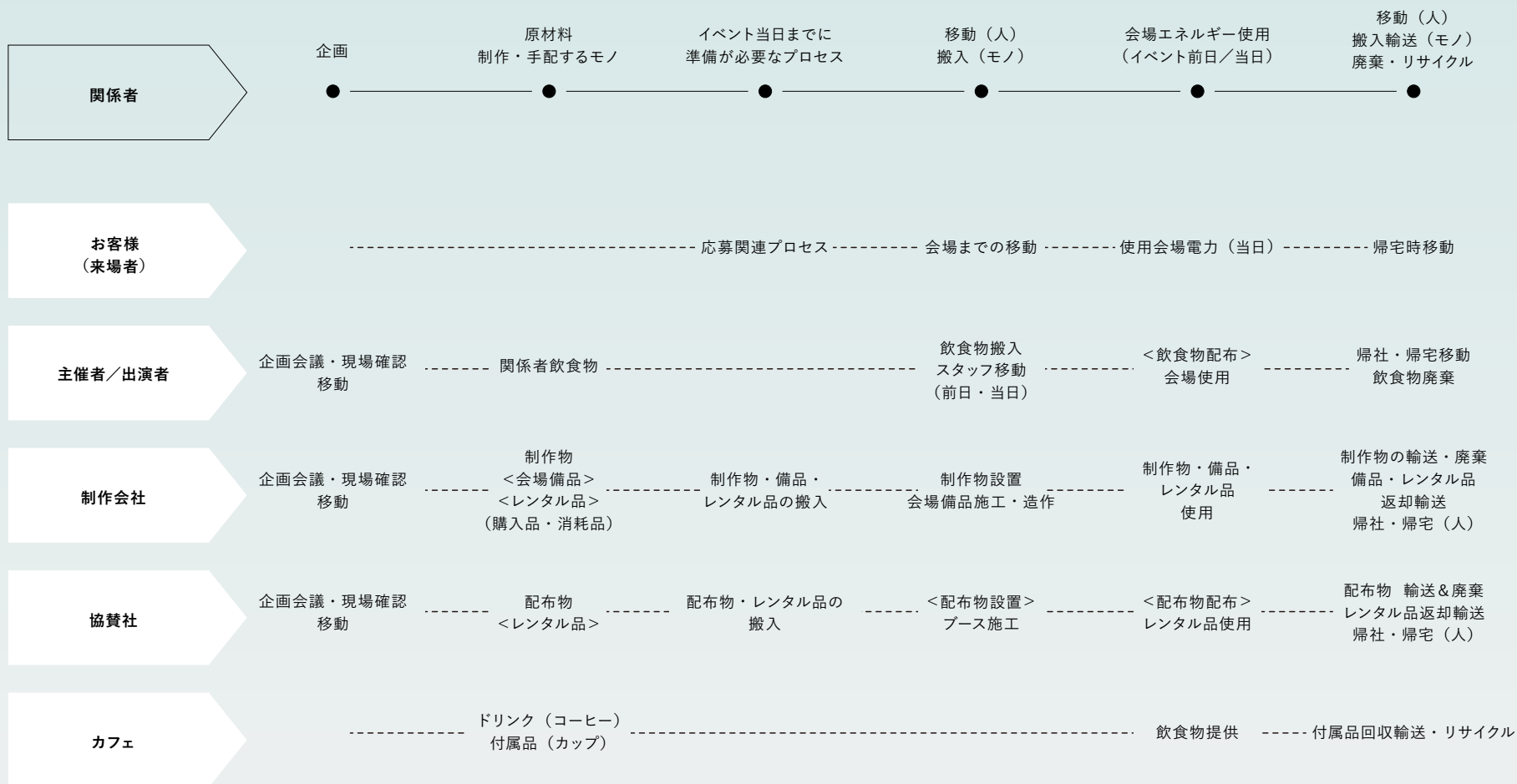
サービス（イベント）のバウンダリーは一般的な製品と合致しないため、ISO に基づき自社で検討しました。



06

バウンダリーにおける関係者と算定項目

< > カットオフ・バウンダリー外 () 補足事項



07

カットオフ対象項目

排出量のインパクトが少ないもの（全体の5%未満と設定）

消耗品（ティッシュ類・文房具）

注）以下は5%未満だったが今回は算定し結果に含めた

- 制作物（ポスター、パネルなど）
- 配布物（イベント運営資料など）
- 応募プロセス

インパクトが小さく推定され実態把握が困難なもの

設営時使用電力量

（今回は会場使用電力に含めて考える事とした）

電力等を使用しない行程（人力による行為など）

ギフトなどの配布

飲食行為

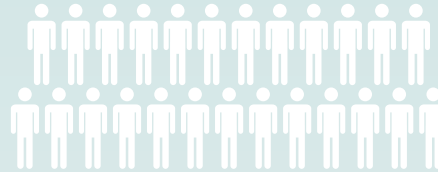
制作物などの設置

08

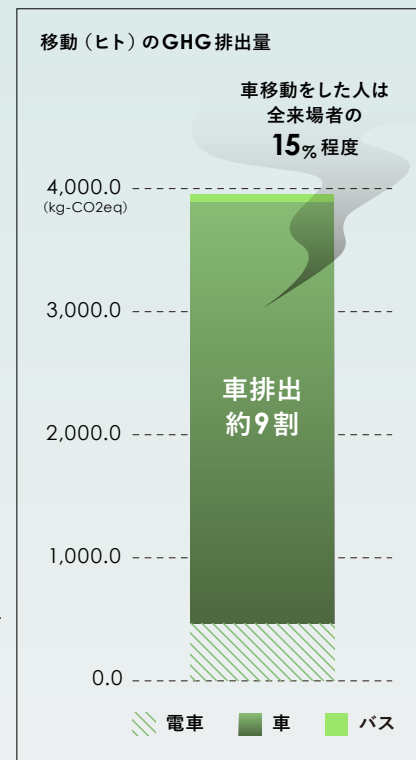
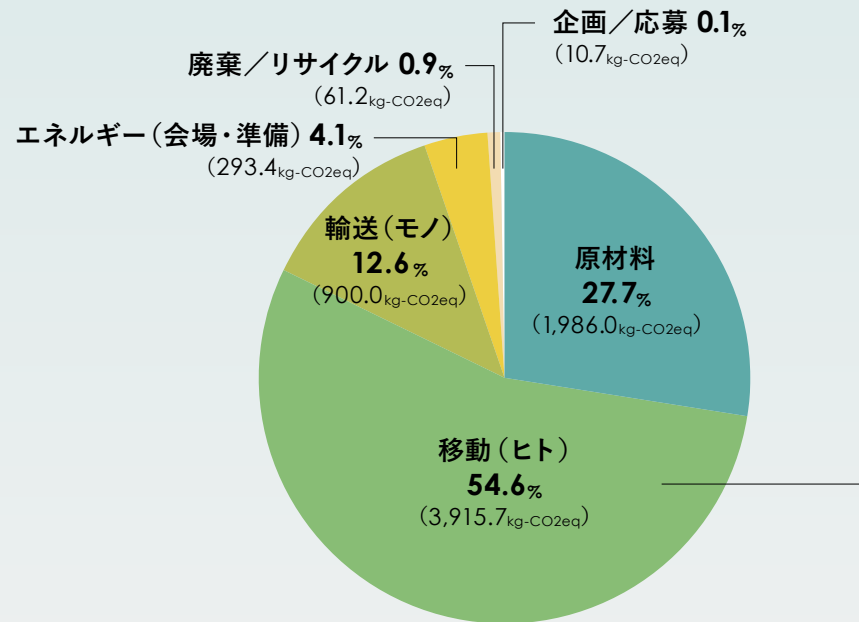
算定結果

約650名（関係者含む）が参加した1日開催のトークイベントから排出された GHG 排出量は約**7,167Kg-Co2eq**でした。

総来場者約650名（関係者含む）



GHG 排出量
7,167.0 kg-CO₂eq



09

見えた課題

1次データ入手の困難さ

- ・ CFP 算定になじみのない関係者が多く、必要なデータの提供ができない、または時間を要することがありました。
- ・ 製品製造と異なり、イベントの目的や開催スタイルおよび関係者が都度異なるため、データ取得のノウハウが蓄積されません。
- ・ モノの輸送排出算定時に必要な重量・仕様データを（事前に）入手する事が難しく、今回はトラックの重量と積載効率を使って算定を実施しました。

算定にかかる工数、運営チームへの負荷

- ・ イベント前後に業務が集中する仕事の性質上、イベントの企画・運営を進めながら算定のためのデータ入手などを進めることは負荷がかかりました。

イベントという性質上、削減に限界のある項目も

- ・ 全体の排出の半分以上を占める「人の移動」ですが、来場者は排出量が低い電車での移動が多く、一方で関係者は車での移動が多く、排出量が大きくなりました。
機材や資材の持ち込みのため電車移動に切り替えることが困難な状況でした。
- ・ 「原材料（飲食物やギフト）」からの排出が全体の約3割を占めました。
算定対象物自体の環境負荷を減らす事を今後検討していきますが、これらはイベントの醍醐味でもあり、来場者の満足度を下げるといった削減施策は取れません。
- ・ 削減努力をしましたが、適切な排出係数がなく、算定結果に反映されないものがありました。
具体的には、ヴィーガン弁当は肉や魚料理の弁当より負荷が低いはずですが、それを反映する係数がなく、価格は通常の弁当より高価なため、かえって排出量が高くなりました。

10

今後の方向性

1次データ入手の困難さの解消を目指す

- ・算定に対する関係者の理解を促進する事前準備・啓発
- ・CFP 算定の認知度向上に向け、メディアとしても啓発を強化

算定にかかる工数、運営チームへの負荷の低減を目指す

- ・算定事例を増やし知見を蓄え、効率性をあげるスキームの構築

削減に限界のある項目の明確化と継続対応を行う

- ・車移動からの排出に関しては、EVの普及がキーポイント
- ・再生可能エネルギーを採用している会場を探し、積極的に利用
- ・原材料部分（お弁当や資材）は環境負荷を考えながら手配
- ・今回同様、シングルユースの制作物を避け、
繰り返しの利用やレンタル品などを活用し廃棄物を削減

11

最後に

現時点では、CFPの算定事例が少なく、特に製品以外の無形商品（サービス）の算定が限られています。イベントにおけるGHG排出量の平均値が存在せず、今回の算定結果におけるGHGの多寡は判断できません。まずは、比較が可能な算定事例を増やすため、当社はイベント開催におけるCFP算定事例を増やし情報公開に努めてまいります。また、CFPの認知を高め、算定を容易にしていくためにも、広く一般消費者にも働きかけていくことが重要と考えています。

当社はメディア企業という特性を活かし、読者やイベント参加者に前向きな行動変容を促すための情報発信に取り組んでいきます。